

## 令和4年度 白鳩チルドレンセンター八雲中事業報告

### 1. 概要

#### ①運営報告

- コロナウイルスの感染に気を配りながらの保育も3年が経過し、職員のみならず園児や保護者も疲弊してきましたが、令和5年の自己判断によるマスクの着用、同5月には感染症の分類が2類から5類へ移行することが示されたことで予断は許さない状況には変わらないものの、ようやく明るい光が差したことに安心するニュースとなりました。
- 守口市においての保育施設の利用及び申込み状況については、昨年度は減少傾向でしたが、令和5年度入園申込みにおいては前年申し込みの少なかった0歳児も含めて3号認定児を中心に入園できない子どもが過去に例を見ない数で増加し、守口市も各園に基準面積上の最大数までの受け入れを要請しましたが、職員数が不足している園が大半で当園も含め、要請に対して積極的な協力ができない状況となりました。
- 採用人事については、年度途中での退職等もあったため中途採用を試みましたが目論見通りには進まず、職員のシフト勤務の設定に苦慮しました。令和5年度採用についても大変厳しく、0歳児の受入数を定数以下にして4月をスタートさせる計画としました。

#### ②利用定員 129名

利用児童数	1号認定	18名(定員15名)		
	2号認定	73名(定員63名)		
	3号認定	54名(定員51名)	合計	145名

#### ③開園日数 294日(日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園) 教育週数 42週

#### ④開園時間 平日7:00~20:00 土曜日7:00~19:00

#### ⑤保育時間

##### ★2号3号認定児

平日	早朝保育	7:00~8:30	土曜	早朝保育	7:00~8:30
	通常保育	8:30~16:30		通常保育	8:30~16:30
	延長保育	保育短時間児 16:30~20:00			16:30~19:00
		保育標準時間児 18:00~20:00			16:30~19:00

##### ★1号認定児

平日	早朝保育	7:00~9:00
	通常保育	9:00~13:30
	預かり保育	13:30~20:00

## ⑥職員数

園長 1名 主幹保育教諭 2名 看護師 1名 保育教諭 19名（うち非常勤5名）  
障がい児加配 2名（非常勤職員） 子育て支援センター事業 保育教諭3名（非常勤職員）  
延長保育事業 保育教諭（非常勤職員）2名 一時預かり事業 保育教諭（非常勤職員）1名  
預かり保育 保育教諭（非常勤職員）2名 その他保育補助 3名（うち子育て支援員2名）  
学校内科医・学校歯科医各1名（各年2回検診実施）学校薬剤師1名（年2回検査実施）※嘱託

## 2. 教育保育運営

### ①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

### ②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

### ③教育・保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

### ④クラス体制（令和5年3月）

#### （3号認定）

0歳児	12名	職員4名＋障がい児加配パート職員1名
1歳児	18名	職員3名＋パート職員
2歳児	24名	職員4名＋パート職員

#### （2号認定）（1号認定）

3歳児	24名	6名	職員2名＋パート職員1名
4歳児	24名	7名	職員2名
5歳児	25名	5名	職員2名

子育て支援センター	職員3名（パートタイム職員）
早朝・延長保育	職員2名（パートタイム職員）
保育補助者	職員3名（うち2名パートタイム職員※子育て支援員）

## ⑤教育・保育内容

- 保育の仕方や子どもへの関わりについて「保育の一日の流れ」のマニュアルに沿って丁寧な関わりを行い、保育士が必要以上に言葉をかけず子ども自身が考え行動するようにしました。
- 配慮の必要な子どもや活動に集中できない子どもへは一人ひとりの発達にあった支援や環境を整え落ち着いて生活ができるようにしました。
- 「朝の意味ある運動」や「夕方運動」を行い、脳内ストレスを発散し一日落ち着いて過ごせるようにし、日中は身体を十分動かすことで、食事をしっかり食べ、十分に睡眠が取れる生活習慣を身に付け、生き生きと活動し自分の力が発揮できるようにしました。
- 子どもの体力や運動能力が低下してきていることから園内での活動場所に限らず近隣の体育館を利用し、広い場所を活用した活動。散歩に出かけるなど子どもが十分に体を動かせる場所を考え、体力、運動能力の向上を図りました。
- 安田式遊具を使って「走る、転がる、とび跳ねる」の原野運動と「ぶら下がる、渡る、登る」の樹上運動をバランスよく取り入れた運動遊びを継続的に取り組み、遊びやゲーム性のある多様な動きを経験することで脳神経の発達を促し、自分の身を守る運動機能を向上させます。
- 乳児期に大人との愛着関係を構築することが将来の心の安定につながることを考え、3歳未満児の「じゃれつき遊び」の時間には、子どもの発する言動に受容的、応答的に関わりながら子どもも大人も人を愛し、信頼する気持ちを育てます。
- 全クラス毎週木曜日のリトミックの時間では、子どもの発達に合わせて手先、足先、腕、脚、全身の筋肉を使い運動機能を高めると同時にリズム感や瞬発力が身に着くよう保育しました。
- 「生き物」「水」など子どもの興味のあることをテーマに決め、年間を通してテーマ保育に取り組み、物や事象に興味を持ち、考える力を養いました。各クラスにおいて自分の考えや新しい発見を発表しました。
- 地域の農業を営む方や地域の学校の先生に協力や指導をしていただき、栽培活動を通じて食育体験を生活の一部として日々の保育の中に取り入れました。収穫した食材は昼食の材料として利用し、自らが育てた食材に対して「感謝していただく」食育活動を行いました。
- 体育あそび、英語あそび、サッカー、歌唱、リズム音楽は外部講師に指導してもらいました。

## ⑥家庭との連携

- クラス懇談会（年2回）個人懇談会（年1回）就学前個人懇談会（1回）、保育参加（年1回／人）リトミック参観（乳児・幼児 年1回）を実施しました。
- 日々の保育内容や行事内容を実施のねらいや結果を交えてお便りや掲示物などで保護者が理解しやすい言葉や写真を使い情報発信しました。
  - 配慮が必要な子どもについては、家庭、関係機関（保健センター、わかすぎ園）と連携し、訪問支援事業や発達相談の機会を設けました。また、OT／PTの巡回指導を受けるなどきめ細かい対応を行いました。4歳児で行われる5歳健診の結果については、保健センターと連携しながら発達相談につなぐなど就学に向けての取り組みを行います。

## ⑦人材育成

- 3年目～5年目の職員をクラスリーダーに起用し、「保育の一日の流れ」をもとに次世代リーダーを育成しました。クラス運営や保護者対応、職員同士の連携など園長、主幹保育教諭を中心に話し合いを行いリーダーとしてのスキルを身に付けることができるようリーダー会を年度初めは毎日、5月からは月2回程度実施し、情報共有と職員指導を行いました。
- 処遇改善手当Ⅱの支給対象者には、保育士キャリアアップ研修の受講を義務付けた上で処遇の改善と資質の向上を図り、全体で90%程度研修要件を満たしました。
- 保護者対応を苦手とする職員もいるため、職員会議やリーダー会議などで互いに意見を交わす場や、コミュニケーション能力を高める機会としました。
- 対面式の研修も徐々に増えてきたものの、園内での保育を優先させるため、WEBでの受講を優先としてパート職員も含めてより多くの職員で研修を受けることで、共有できる人数も増え、専門的な知識を身に付けることができました。
- 安田式遊具を用いた運動遊びについては、WEB研修の参加や講師を招いての研修会を行い、年齢発達に応じた運動あそびの指導法や集団遊びの進め方について学びました。学んだ内容については指導計画にとり入れ、保育者も一緒に体を動かし遊ぶことで、園全体が活性化するようにしました。

## ⑧地域の実態に対応した事業

- 地域子育て支援センター事業（センター型）
  - ・園内ホールを開放し、親子教室の開催をし、親子で楽しめる遊びや子育て支援に関する情報の提供をしました。
  - ・定期的に親子ヨガや体育遊び、英語遊びなどの講師を招き親子で楽しむことのできるプログラムを実施しましたが、申し込みと同時に定員が埋まりお断りした件数も多くあったため、次年度は受入数も見直し、たくさんの方に参加していただけるようにしたいと思います。
  - ・園内での活動だけではスペースも限られているため近隣にある北部コミュニティセンター体育館を使用して身体をしっかりと動かすことができ、親子で触れ合えるアクティビティを行いました。子どもたちも広い場所での活動で活発に遊ぶことができました。
  - ・保育相談などを受け、必要に応じて保健センターなど関係機関と連携し子育て支援をしました。
  - ・活動内容は毎月のおたより、ホームページ、守口市広報紙を通じて地域に情報発信をしました。
- 地域とのかかわり
  - ・守口市の伝統野菜である守口大根を地域の方から栽培指導をしていただき、守口東高校の教員の方にも協力していただき栽培しました。
  - ・守口東高校に出向き、赤ちゃんのことや保育の大切さについて主幹保育教諭が講師となり生徒の皆さんに授業をさせていただきました。
  - ・子どもの健康に関する情報交換や、子育てに関する相談業務を大阪旭こども病院と連携して行いました。

- ・5歳児は就学先の小学校に授業見学や交流会に参加します。授業見学後に、就学先の校長、教頭、担当教諭と意見交換する機会を持ち、子どもの育ちや生活や学びの実情について相互理解できるようにします。

#### ⑨苦情処理

- 第三者委員の設置について、入園説明会、園のガイドブック、ホームページや園内掲示、クラス懇談会（5月）を通じて保護者に知らせました。
- 「苦情申し出窓口」として主幹保育教諭が受付担当者、園長が責任者として、「意見箱」「アンケート」など保護者からの意見や要望に対しては24時間以内に対応しました。行事の在り方や、保育士の言動についてのご意見がありました。

#### ⑩リスクマネジメント

- 危機管理委員会を中心に見直しを行った「危機管理マニュアル」、「保健マニュアル」については、職員研修計画に基づき、園内研修で職員に周知徹底しました。
- 消防署と連携し、総合災害訓練（年1回）、通報訓練（年2回）を行い講評をいただき、日常の防災対策に役立てました。
- 災害時の対応については、保護者にも重要事項説明書やクラス懇談、ガイドブックで丁寧に伝えるとともに、災害を想定した引き渡し訓練（年1回）も行うなど、保護者と連携して災害時の対策を行いました。
- 「安全管理年間計画」に基づき、危機管理委員会が中心となり、安全管理と園児への安全指導を絵本やDVDを使用して月1回実施しました。
- ヒヤリハットの事例について収集し、危機管理委員会が事例をまとめ、毎月の職員会議の場で事例を共有し、事故防止に役立てた上で事後の改善策の立案をしました。
- 備蓄品リストをもとに災害備蓄品の点検（年1回）を行いました。（園児引渡表・非常持ち出し袋・倉庫備品・アレルギー児用備品など）
- 年長児が守口警察署へ社会見学に行き、防犯指導をしていただきました。